

5 新たなサービス展開

新たなサービスについては、子どもや子育て世帯、若者を主な利用者層として位置付け、行きたくなる図書館づくりに取り組むとともに、誰もが情報にアクセスしやすい環境を整えます。そのため、豊中市立図書館の資源や利点を最大限に活用し公民館等と一体的に社会教育を推進するとともに、司書の専門性を活かし暮らしの課題に働きかけるなど、まちづくりの視点で新たな図書館サービスを展開し、人と情報、人と人をつなげていきます。

①滞在しやすい環境の整備

みらいプランでは、図書館の位置付け（施設階層）ごとの役割や機能を示し、閲覧環境やスペースの方向性を明確にしました。中央館・地域館・分館がそれぞれの役割や機能を発揮しニーズに応じた滞在しやすい環境を整えます。特に分館においては、地域特性に応じた特徴ある図書館づくりを進めます。

②高川・螢池図書館の新たな機能展開

高川や螢池の図書館は、図書機能や児童館的な機能、多世代交流・地域連携機能などを有した空間づくり、機能が融合された場づくりを行い、司書が中心となって、人と人、人と地域をつなげる取組みを進めます。具体的には、予約資料の貸出しや資料の返却とともに、子どもたちが自由に遊べる場や子育て世帯が安心して快適に滞在できる場、若者が学びを深める自学自習室、地域の課題解決を図る連携の場など、様々なゾーニングにより滞在できる場づくりに取り組みます。

③暮らしの課題解決等に係る取組み推進

豊中市立図書館では、これまで子ども読書活動や障害者サービス、おやこでにほんご、しょうないREKの活動、北摂アーカイブス事業など市民との協働で暮らしや地域の課題解決、まちの活性化に取り組んできました。また、市民生活で関心の高い課題として、「医療・健康情報」を岡町図書館、「多文化共生」を庄内図書館、「ビジネス・就労」を千里図書館、「子育て・DV」を野畑図書館でコーナーを設けて、関係部局・機関と連携して各テーマの講座を実施してきました。引き続き、市民との協働を推進するとともに、様々な体験や課題解決が可能となる取組みを関係部局や機関と連携し進めます。また、司書の専門性と図書館の資源を活用し、暮らしの課題解決に向けて地域に働きかける体制を整備し取組みを進めます。

④学校図書館の充実

学校図書館は、「読書センター」や「学習・情報センター」、「教員のサポート」の機能を有するとともに、子どもたちの居場所としての役割を担っています。本市では、全小中学校に配置された学校司書が中心となって、児童・生徒の読書活動や学習活動、情報の扱い方などについて支援を行うとともに、教員の授業支援、児童・生徒の昼休みや放課後の居場所づくりに取り組んでいます。学校図書館の蔵書は約80万冊あり学校間で貸し借りができるとともに、市立図書館の蔵書約100万冊も利用することができます。今後も、市立図書館と学校図書館が連携し、子どもたちと多様な資料・情報をつなぐ取組みを進めるとともに、紙の資料やインターネット情報など様々な情報を適切に活用する情報リテラシー教育の支援を進めます。

⑤電子書籍の拡充

令和2年（2020年）の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、図書館を利用できない時期や利用しにくい時期が続きました。また、これまで図書館への来館が困難だった人や、図書館の開館時間に利用できなかった人へのサービスを考えたとき、図書館に来館することなく24時間、サービスを利用できる電子書籍は重要となります。このことから、令和4年（2022年）7月に「豊中市デジタル図書館」を開設し、電子書籍貸出サービスを開始しました。今後は、誰もが本を借りやすい環境と読書バリアフリーの充実のため、電子書籍の拡充に取り組みます。

⑥蔵書（電子書籍含む）の充実

基本構想の「蔵書構築の方針」に基づき、新たな施設配置においても、電子書籍を含む約100万冊の蔵書をめざします。また、総出版数に対する図書館における購入タイトル数の50%以上を維持し、貸出利用を促進します。さらに、大学図書館との連携を進め、市民への多様な情報提供サービスの充実に取り組みます。

⑦アウトリーチサービスの充実

基本構想ではアウトリーチサービスを「通常の方法ではサービスが届かない人たちにサービスを行き渡させるため、より積極的、能動的に図書館が工夫をこらす活動のこと（出典：最新図書館用語大辞典）」としています。これまで動く図書館の巡回サービス、高齢や障害により来館が困難な人への宅配サービスを実施してきましたが、さらに、図書館利用が困難な市民へのアウトリーチサービスとして郵送貸出などに取り組み学びの支援を進めます。

⑧動く図書館のステーション配置の見直し

新たな施設配置での利用状況を検証し、市内のどの地域でも利用しやすいように、動く図書館のステーション配置を見直します。

⑨図書館サービスのデジタル化

豊中市立図書館では、セルフ貸出機や返却機の導入を進めるとともに、令和3年度（2021年度）にはWebで仮登録できるシステムの導入や、スマートフォンで利用者バーコードを表示し利用者カードの代替として使用できるデジタル化を進めてきました。今後は、電子書籍の拡充とともに、非来館で新規登録ができる方法やサービスポイントの無人化など、新たな図書館サービスのデジタル化に取り組みます。併せて、誰もがデジタル化に対応できるよう、利用支援を行うなどデジタルディバイドの解消に取り組みます。

⑩まちを活性化させる図書館サービスの展開

「地域の知の拠点」として多様な情報を扱う図書館と、社会課題や地域の魅力などをテーマに学びの支援を行う公民館、市の歴史と文化財の資料を扱う郷土資料館などが一体的に本市の社会教育を促進するとともに、まちを活性化させる拠点として、図書館の資料・情報提供機能を最大限に活かしたサービスを展開します。